

答 申

当審議会は、平成26年7月7日、八代市立学校の規模適正化について諮問を受け、八千把小学校浜分校、金剛小学校敷川内分校、鏡西部小学校の過小規模に対する教育環境の整備について、慎重に審議を行いました。

審議に当たっては、八代市立学校規模適正化基本方針に示された「適正化の目的、適正化により期待される効果、望ましい学校規模、適正化に向けた具体的な手法」等に基づき、子どもたちが等しく望ましい教育を受ける機会を得るためには、どのような教育環境のもとで育つことが望ましいのかを基本として審議しました。

その結果、以下のように答申します。

○八千把小学校浜分校

平成28年度末をもって閉校し、八千把小学校本校への統合が望ましい。

○金剛小学校敷川内分校

平成28年度末をもって閉校し、金剛小学校本校への統合が望ましい。

○鏡西部小学校

平成28年度末をもって閉校し、鏡町内の小学校への統合が望ましい。

答申付帯意見

児童の遠距離通学に係る安全確保、負担軽減等を配慮して、スクールバス等通学方法を整備するものとする。

最後に、八代市教育委員会におかれましては、本答申を尊重され、3校区における望ましい教育環境の整備に努められますよう要望します。

審議の経緯

鏡西部小学校

審議会では、校区の児童数推移（見込み）、保護者及び地域住民への事前説明会記録、第2回審議会における特別委員の意見内容、保護者による鏡西部小学校の教育環境に関するアンケート結果を主な資料として検討を行った。

保護者は、ある程度の人数（集団）の中で適応能力がつく、今は固定化した人間関係になってしまい関係が悪化したら修復が難しい、大人数の学校規模だけがよいというものではない、閉校すると思うと寂しい、我が子はここでないと育てられない、複式学級は目が届いてよいなどの意見があり、統合に賛成しておられる方もおられるし、このままでよいと思っておられる方もおられる。

地域住民の方々も、学校教育のプロが学校現場のふさわしい形に進めればよい、少なくなる一方なので統合は仕方ない、もう少し検討する時間がほしい、校区変更はできないのか、出た学校がなくなるのは抵抗がある、学校があって今の地区があるなど、統合への賛否両方の思いが混在している状況である。

そういうことでありながらも、審議会としては、来年度は完全複式学級になること、児童数の推移、教育施設や備品等教育環境を確保する上での困難性等子どもの教育を受ける環境の充実と豊かな学びを保障する観点からも、地元の思いは尊重しつつも統合の方向が望ましいという結論に達した。

統合の時期については、準備期間等を勘案して平成29年4月とした。